

KoKoRoの窓

== 日々奮闘
の子育て ==

子育ては、本
当に大変です。子
育てにはお休みが

ありません。その中でどう対応しているのか、何のために
子育てをしているのかって考えてしまいます。特に問題
を抱えたとき、その親にとっては、生きるのが辛くなるほ
ど、大変なことだと思います。

その子育てが生活から切り離されているような気がしま
す。時代が変わっても、この二つのことは、ずっと同じで
す。子育ては、生活そのものです。うまくいくときもある
し、いかないときもあります。専業主婦の時代から、高度
成長期に伴い共働きの時代に、そして、女性の社会進出に
よって待機児童の問題にまで発展しています。それぞれ
の家庭の状況の中でできる子育てをしていくことを考えれ
ばいいのだと思うのですが、そう考えると、保育園や幼稚

園はただ預けるところではな
く、子育ての一貫です。あるお
母さんが言われていました。「社
会や家庭がお客さん化していま
すね」と。病院、保育園、幼稚
園、そして、学校でさえも。

リレーの選手を決めるのに、最近ではビデオを準備して
おくとか、決め事をする際は、必ず2名以上の教師がいる
中ですとか、運動会でコーナーでは減速するとか、今ま
ではあまり見られないことが起こっているようです。
クレームを気にしてのことでしょうが、意見を言うのとク
レームつけるのとは、全く質が違います。「言わなければ
損」ではなく、子どものために本質的に何が必要かを話



し合うことが必要なのに、コミュニケーションツールの多
様化で、理解し合うための意見交換がなされないままにな
っています。後にむなしさが残る国会論争のように。

私も息子をどこの幼稚園に入れるか
考えました。主任の先生と話し、園の
子ども達を見て即決めました。息子
達は、そこで大きく育てられました。



息子は、何をすることもゆっくりで、自分ができないこと
は手を出さない性格でした。そんな子どもですから、初め
での運動会などは、みんなと一緒に練習をしようとしませ
んでした。おどりも、競技も一切練習なしです。ところが
運動会当日、登園すると会場に飾られた万国旗をみて、い
つもは、私から離れない息子が、すぐに手を放して先生の
所へ走って行っていきました。「おはよう。これどしたん！」

それから、競技は全部参加し、なにより、人の競技をに
こにこしながら手をたたいて応援している姿に、本当にこ
の園を選んでよかったと思いました。「今日も見ている
だけでした」と毎日のように言われましたが、先生達も決
して無理強いして練習に参加させようとせず、見守ってく
れていました。息子は、参加しないのではなく、自分が
できるかどうかじっと観察し、みんなの練習を見ることで
参加していたのだと思います。もし、それを無理してや
らせると、もしかすると、通園も嫌になったかもしれませ
ん。また、年長さんのころ、いじめの問題がありました。
自分の思い通りにならないとき手を出す子どもがいたの
です。その際、母親達を集めて、話し合いが何度かありまし
た。当人の母からの説明もありました。それは、今の時代
だと謝罪のようなものを想像されるかもしれませんが、そ
うではありません。この問題をみんなの問題として受け止
め、いかに子ども達が解決できるようにしていけるかを話
し合ったのです。私も息子と話しました。息子もその子を
避けているようでしたが、「きっと一緒に遊びたいはずだ
から、自分から話してみたら」しばらくすると、家にも遊
びに来るようになる仲になりました。

私たちは、日々変化(成長)しているはずです。特に、

子ども達は、けんかやいざこざに巻き込まれながら 人
とのつきあい方を学んでいくのです。それを、あの子とは遊
ばないとか、いざこざになる前に大人が止めると、子育て
(教育)ではなくなってしまいます。小さいときはけんか
をしてほしいです。そこから学ぶことはたくさんあります。

話は変わりますが、最近では、どこのお店でも、会社でも
電話応対やセールストークは、表面上非常によくなってい
ると思います。ところが皆同じで、時々、それはマニュアル
通りに言っているのではないかと、心底から出た言葉では
ないのではないかと気がすることがあります。「お客
さんの家庭や社会」でなくなればいいのでしょうか。言葉
に深みが感じられないのです。「育てたように子は育つ」
相田みつをさんの本のタイトルです。もっと楽に、子育て
を楽しんでできたら、きっと、お母さんがお父さんが、まわりの、お
じいちゃんやおばあちゃんが楽しんで
いることがわかれば、「子育て」
は、義務的な響きがなくなる言葉に
なる気がします。子どもが一番、楽しく学んで生活できる
のではないのでしょうか。



「トマトがねとまとのままでいれば
ほんものなんだよ

トマトをメロンにみせようとするから
にせものになるんだ

みんなそれぞれにほんものなのに
骨を折ってにせものになりたがる」

「待ってもむだなことがある

待ってもだめなこともある

待ってもむなしきことばかり

それでも私はじっと待つ」

「育てたように子は育つ」 相田みつをより

*写真は半田正子さんによる絵画教室より

(4月16日 実施)